

先輩のお話を聞く会 「看護師になるまで、そして今」

- ・日時：2016年5月14日（土）12:00-13:30
- ・場所：さぽうと21
- ・ゲスト：Uさん

7年前、卒業証書など何ももたず、来日。夜間中学校に入学し、日本語を学ぶ。その後、都立山吹高校通学のかたわら、高卒認定試験を受験し、高校卒業資格を得る。S看護専門学校に入学し、2016年3月卒業。看護師国家試験に合格。この春、S看護専門学校の母団体である、S病院で看護師として働き始める。

高校生 A：どうして看護師になろうと思ったのですか？

U：来日してから、私なりに営業や飲食店のバイト、コンビニ、ネイル等やってみたけれど、自分の将来、生涯自分がやっていけると思える仕事ではなかった。将来が具体的に描けなかった。何をしようか悩んだ。両親が医療系だったこともあり、看護師の仕事を考えるようになり、看護師は国家資格であるし、社会的信頼度も高いということで、看護師の道を選んだ。

U：逆にみんなはどうして看護師になりたいの？

高校生 A：おばあちゃん、おばさんなど看護に関わる人が多くて、人の身体や心に興味をもち、「やりたい！」ではないけれど、面白そうだったから。それから給料がいい。

高校生 B：もし来日してなかったら、お母さんは私を母国で医者にすると小学校のときから決めていたらしい。医療系のことしかイメージがなかったので、選択肢があまりなく、そうしようかなと。

U：自分自身はどう？

高校生 B：私自身も、おばさんが医者で、おばあちゃんが病気になったらすぐに駆けつけてくれたのがかっこよく見えていた。今も道で救急車が走っているのをみると、やっていることを止めて、その人が間に合いますようにとお祈りする。そういう思いやりみたいなものが自分の中にあるのかなと思って。

U：私のお父さんも医者だった。母も医学を勉強していた。私のことを医者にさせたかったらしい。私はそれが絶対嫌で、全然別の勉強をしていた。やりたいことたくさんあるかもしれないけれど、医者をもっと道のりが大変。現実的に医療系の仕事に就きたいと思ったら、まずは看護師かな。看護学校は大学に比べて行きやすいし、学

費も割と安い。看護学校で3年間勉強すれば、学校にもよるけれど、ほぼ国家試験に合格できる。私の学校も今までほぼ100%。すごく現実的な夢だと思う。他にもやりたいことがあるかもしれないけれど、まずは看護学校に行って、資格をとって、それから、まあ、人生長いから、それからやりたいことをやってもいいのかな。

まずはなぜ自分が看護師になりたいのかを、自分の中で何度も何度も繰り返し考えてから、目指してほしい。そうそう簡単になれるものではないから。私も、何度もさぼうとに来て泣きついた。3年間すごく大変で、1週間寝られないことも当たり前。そのまま病院に行ったり。患者さんは年配の方も多いので、患者さんとのコミュニケーションもすごくつまずく。自分より何十年も長く生きてきた方と話を合わせるのとは簡単なことではない。

中学生 Q：わたしも医者になりたかった。医者は大変だと思った。(国で看護師の)お母さん、かっこいいなと思っていた。小さい頃から、おじいさんおばあさんなど病気になっている人を助けたいと。…いま14歳で中学生です。1年5ヶ月前に来日しました。

矢崎：どうやって学校を決めたのですか？

U：ひとりで日本に来たので、自分にはサポートしてくれる家族がいなかった。でも勉強したかったので、UNHCRの難民高等教育プログラムに応募したがダメだった。ダメだった理由はよくわからなかったけど。その結果が出て、やっぱり勉強はしたいけれど、学費が用意できない。色々探して、「S看護専門学校」を見つけた。学費が安いのもポイントだった。試験は、そんなに難しくなかった。作文、数学、面接。作文は自分なりの意見を述べればよかったが、それに比べて面接がととても大変だった。ほとんどの人が面接で落とされていた。わたしの学校は7倍だった。社会人枠はさらに少なく、よりいっそう厳しかった。親に看護師になりなさい、看護学校に行きなさいと言われただけの受験生は、なんていうのかなあ、「本当はもっと看護の勉強よりもやりたいことがあるのに・・・」といった複雑な気持ちの葛藤があり、面接を受けてもそれが相手に伝わってしまう。ですからそのような気持ちを持っている人は、受験をすすめません。自分でなぜ看護の勉強をやりたいのかをしっかりと考え、看護師という仕事についても事前にしっかり調べてから、面接に行って、ちゃんと受け答えができるように・・・。面接が大変なんですよ～。

学校側では、外国人を受け入れた前例が少なく、私の学校も私が初めての外国人だった。先生方もとまどいが大きいみたい。しかも、看護師は閉鎖的な考え方の方も多。中学、高校を卒業して、そのまま看護師になった方がほとんどなので。ずっとその道を歩んできた方が多くて、それしか経験していない・・・。社会を経験して入った人は、あまり好まれないことも。外国人・複雑な出自・国籍なし(当時)、社会人、保証人なし、という自分には、ハードルが高かった。学校側の英断で、入学が認められた。日本生まれだとしても、言葉だけでなく文化の理解が必須。患者さんは、ほぼ日本人だから。

でも、でもだよ・・・、看護師はいいことも多い。給料はそこそこいい、この時代でもボーナスもちゃんとある。ローンを組むときも、書類が簡単。社会的信頼があるんだよね。命を預かっている仕事だから。それは、すごいメリット。どこへ行っても大丈夫。

ただ、どんだけ大変な思いをしても看護師になりたいっていう、強い思いがないと、たどり着かないと思う。

矢崎：在学中に大変だったことは？看護専門学校に入ってすぐ、さぼうと21に生物を勉強に来ていたこともあったかな？

U：最初は専門用語。私は日本語も大変だった。そのときすでに20代後半だったこともあり、授業で聞いてもわからず、さぼうと21にまたお世話になった。ずっとレポートや試験の繰り返し。(中高校生「あ、、、、そうなんだ」会場笑)入ったら、科目の勉強、ちゃちゃっと終わって試験、試験、試験。終わったら実習、また試験。夏休みも課題がたくさん。一生、勉強です。まだ勤務1ヶ月ですが、医療はどんどん進む。医療が先に進んでも人がついていけないといけなないので、勉強会もよくあります。人の命を預かる仕事なので、ずっと勉強は続く。何年目でも関係ない。それは覚悟したほうがいい。

一番大変なのは実習。とにかく寝られない。

高校生A：先輩看護師が厳しいとか聞く……。

U：で、落とされるんですね。「この子は頑張れないな」とか……。「看護観」というのがあるんですよ。私の中ではまだ定まっていけないけれど……。患者さんにどう接するのか、どういう気持ちで看護師を目指しているのか、自分が看護師としてどうありたいのかを書く。そういうのも、先生たちが「これだ」と思えるものが書けないと、再試だったり。

わたしは3年で卒業できたが、4年通う人も多い。入学当時は40人いた同期も、(学校が)厳しかったこともあり、辞めたり留年したりする人もいたため、卒業は半数でした。入学後に両親が呼ばれて、いかに大変かの話もされる。「覚悟してください」と言われる。

でも、そんな3年間があったからこそ今があるし、それが耐えられなかったら、現場ではとてもとても働けない。今は手術室の配属でオペナース。オペ室で、毎日命に携わっている。あたりまえだが、作業ひとつ間違えたら人が亡くなってしまう。本当に命を預かる大切な仕事。えらい所に入ってきたなあって思う。でも、やはり、患者さんが元気に退院する姿を見ると、とてもやりがいを感じる。

高校生A：家と学校の距離はどのくらいでしたか？

U：20分くらい。できるだけ近い方がいい。寝られないし、辛いから……。忙しいので遠いと大変で、県外通学だった人もひとり暮らししたりとか、そういう子が多かった。3年生になると1年ずっと実習。その場所は様々なので、病院に近いところに数人で借りて住むことも。入学当初はシェアハウスだったが、楽しくて勉強ができなくて、引っ越しをした。(シェアハウスでは)みんなとおしゃべりしていて、気づいたら1時で、大変、勉強しなきゃ！と朝までやったり……。 (会場笑)……。こりゃ無理だなと思って引っ越しました。

U: あとね、友達とのコミュニケーションもすごく大事。グループで動くのね。3年生になると、同じグループで1年間ずっと動くの。一人でも勉強とかで後れをとると、グループ全体に響くから、もう、ビシバシ言いながら、泣きながら、1年間やっていくんだよね。コミュニケーションはとても大切なこと。それは現場でも同じ。コミュニケーション不足が医療ミスの原因ともなりうる。コミュニケーションは本当に大事。

参加者: 最初の外国人学生だということだったが、そのあとは外国人学生はいましたか？

U: 日本生まれで日本名の方が1人いました。

参加者: 学校の勉強が大変だということでしたが、その勉強をこなせば、国家試験は受かるということですか？

U: 学校の試験の中で、すべてが詰まっているので、それをちゃんとこなしていれば、国家試験は受かります。常識的な問題しか出ないので。

参加者: 今、EPAでフィリピンやインドネシアから看護師候補者が来ているが、本当に合格率が低い。

U: 優秀な看護師を海外から連れてくるのも手だと思うんですが、日本の看護は外国と比べて特殊です。病院文化も違う。海外では、清拭とかは他人にやらせないらしいが、日本はそれも看護師がするとか。

日本の学校できちんと勉強したほうが合格率は高くなるんじゃないか。

高校生 B: 専門学校では3年生になっても、全員ではなく、受かる見込みがある人だけが受験できるとか聞いたが・・・

U: どの学校でも、多かれ少なかれ、そう（ではないか）。まず、そこへ行くまで。先生たちの判断で、この子は行けるとなったら受けられる。上位何人とかじゃなくて、受験票をもらったら、（国家試験を）受けられるんだなと分かる。先生たちも3年間本当によく頑張っている子は見えていてくれる。「頑張ってるし」というのは先生方にも多少はある。

私が外国人で日本語がわからないからではなく、みんなが大変。みんなが寝られない。看護記録もこんなに書かないといけない。朝までかかる。グループで会話ができるアプリがあるんだけど、みんなで、「だれだれ、大丈夫？寝てないよね？」「だれだれ声ないけど大丈夫？」って声かけあいながら、朝までやったりとか。きつい。体力も鍛えて！

国試さえ通れば就職はいくらでもできる。それは強みだと思う。新人の中で大学卒業の人がいるが、大学の方が専門学校よりも楽しい。寝られる・・・。倍率は高いけどね。

高校生 B: 大学を出た人と、専門学校卒の人の違いはありまか？

U: 職場での違いはほぼない。毎月、給料が 5000-10000 円くらい高いだけ。現場はすごく大変なので、すぐ辞めるのは大卒だと言われる。楽しんで卒業してきてるからね……。専門卒の子たちの方が根性があるように感じる。

矢崎: 学校では奨学金はもらっていた？

U: 月 3 万の奨学金、もらってました。母団体の病院からもらっていた。卒業後、その病院に 3 年勤めたら、返済不要。全員がもらえるわけではなく、倍率は高かった。2 年目でもらえた人もいる。最初は、とにかく自分が金銭的に大変な環境だということをアピール！なんでもアピール、コミュニケーション！（会場笑）

高校生 A: 学校の時間は？

U: 9 時から 16 時半。1 年生はそんな感じ。2 年目からは、そのあとも色々あって、7 時 8 時。10 時とか 12 時とかまでグループでカフェなどで課題をやったりした。学校は 6 時で閉まるので。大学とは比べ物にならないほど忙しい。

高校生 A: それ聞くと、大学の方が楽しそうだね……。

高校生 B: 楽しそうだね。

U: 私の学校もほとんど現役生だったけど、大学に行った友達とかから「今日は休みでどこそこ行く」とか聞いて、「ありえない」って感じだった。「休む」とか「遅刻」なんて、ありえなかった。

高校生 B: 大学と専門学校のどちらに行くべきかと悩んでいて……

U: 大学は、学費は高いし、卒業までに 4 年間かかる。国立で看護があるところはさらに少ないし、倍率も偏差値も高い。現実的に考えて、問題ないなら、大学に行ったらいいんじゃない？昇格はしやすいかも。自分がどんな看護師になりたいかで決めたらいいと思う。

会場: 大学に行かないととれない資格などもあるかもしれない。

U: 専門学校もそれなりにあるけれど、他の資格も同時に目指すなら大学もあり。

矢崎: どうやって学校を決めましたか？

U: 学費順に出てくるサイトで専門学校を並べて、受験の科目も考えて参考にした。科目は少ない。数学は本当にレベルが低いから。（「そんなことはない」と会場より）日本に来て 4 年目から（受験勉強を本格的に）始めたため、英語の勉強まで手が回らず、科目をしぼった。S 病院は全国で 1 つしかない特別の病棟がある。そのお仕事内容にも惹かれて、配属を希望してい

た。実は、オペ室は第3希望だったけれど、オペは人手が足りず、希望欄に書いたら、オペ室に配属となることが多いらしい。それを知らなかった。

オペ室は、土日休みで夜勤がない。そのかわり「オンコール」の担当があって、常に携帯を持って待って、連絡があったらすぐ駆けつける。大変な患者さんが多いと、オンコールも多い。

会場：コンピューターの仕事でもそれは同じ。夜中に連絡があって、朝のオンラインに間に合わせるように対応する。

矢崎：人とのコミュニケーションについて、看護専門学校に入る前より入ってからの方が難しさを感じるようになっていたような気がします、どうですか？

U：（これまでに）いろんなことを経験してきたので、（学校に入る時も）なんでもいける！っていう思いが大きかった。でも、実際に行ってみると、現役生がほとんどの中、今の女子高生の会話にもついていけない。あと、先生方も、さっきも言ったけれど、看護の世界をずっと頑張ってきた方々で、「え？今、私が言った事、わかるの？」という感じで、「わかります」と言うんですけど、自分の中で傷つくことは多かった。でも、他人と比べないことが大事なのかな。私の場合は、私と同じ立場の人がいなかったから、比べる人もいなかった。ただ、「看護を目指す」ということぐらいが共通かもしれないけれど、それ以外は全部違う。本当に同じ部分がなくて……。みんながこうやってるから、私もやろう、と思わずに、「しかたない！」と思って、あきらめるといふより、「彼女は彼女で、私は私」、と考えるようになった。そうすると、けっこう楽なんだよね。何言っても、「うんうん、そうだね」みたいな感じでつき合えるし。先生たちのお考えが理解しにくいと思うこともあったが、それよりも、先生方は何かしらきつと私たちに伝えようと思われることがあるんだろうと必死で聞いた。もう、本当に必死だった。この3年間でダメだった（3年で修了できず、また一からやり直す）ときの不安も大きかった。何をやっても常にメモを取りながら頑張った。そうすると、先生方の対応も変わってきたり……。

ちょっと変わった日本人がいても、「この人、変わってるね」で済むが、外国人の場合は、ちょっと違うだけで「外国人だから文化が違うんだから」と切り捨てられる。「違うんだから、しょうがないでしょ」という感じになるから、それが悔しかった。人って、日本人でも外国人でも、それぞれ個性があって、みんな違う……。でも、それじゃなくて「外国人だから」と言われると、は？ってなる。それを意識しないように、「はいはいはい」って。自分の中のプライドみたいなものは、捨てよう捨てようって。

U：みんなはどう？学校とかで周りとの違いに関して。

高校生A：毎日、感じている。でも、それは仕方ないと、受け入れ、流すしかない。自分は自分、相手は相手と割り切っていくしかないと思った。

高校生B：自分とみんなが違うことを感じていたのは、中学生までだった。当時は自分が日本人でないことがコンプレックスだったが、高校生になって慣れたし、みんなと同じことができる

と思えるようになって、徐々に気持ちが楽になった。

中学生 C : 勉強、日本語も難しい。言っていることはわかるが、話すのが苦手。

U : また、現場に出たら、患者さんは年配が多い。昔の方は、さらに偏見も多い。「外国人なの？日本人じゃないの？この人に任せていいの？」とか言われることも。（「え～？」と高校生）それは当たり前だと思った方がいい。「それ、おかしいでしょ」と思ったら、この仕事、つけない。無理無理。それは当たり前で、「でも、私ができることをやります」って言うと、伝わるんだよね。そうすると、「昔、向こうではどうだったの？」と言われてたり。

高校生 B : Uさんって、見た目も日本人だし、名前も日本人じゃないですか。何がダメなの？

U : 今は名前は変わっているけど、実習中に一人の患者さんをずっと見る。3年生の初めまでは、日本名ではなかったの、名札で外国人だとわかる。で、逆に、日本の名前が変わって感じたのは、やっぱり違いがあるんですよ。日本語も、文化も、挨拶もまだまだ。なんか、あるじゃん。深い部分では日本人と同じことはできない。そういう時は、潔く正直に伝えている。そういう場合は、自分から伝えたほうがコミュニケーションを取りやすいこともあるから。日本人みたいにふるまっても、つまづくことも多いから、逆にそういう時は（外国人だと）言って、「わからないから、教えてください」って言った方がうまくいくこともあるから。

高校生 B : どっちにしろ、やっぱりあんまり分かりやすすくない方がいいんですよ。あとあとに言うのはともかく、最初から丸わかりなのは、よろしくないのではないですか。私、自分の名前がカタカナなのが嫌だ。仕事につくまでには国籍も日本にして、名前も変えたいなっていう願望はある。あとで患者さんに説明すればいい話で、見た目から分かって、それで判断されるのは嫌だ。

U : いやだよ。そうそう、それはすごい分かるんだよね。分かるんだけど、ある意味、いい部分もあって、患者さんが、心の準備をしてくれる。それはすごくいいと思う。逆に今の私は、見た目と名前ではわからないから、当たり前のように日本人かと思って接して、違ったら、「あぁ？」ってなるのも嫌なの、すっごく。メリット、デメリットもあって、で、しかたないじゃん、自分だから。それを受け入れるしか・・・やっていくしかないし、やっていくうちに、コツっていうか、ある程度は柔軟にやっていけるようになるのかなと思うけど。カタカナの名前で頑張っている看護師さんに会ったこともある。すごい立派な看護師さんでした。

高校生 A : 女性ばかりの社会は大変？

U : 大変です。（笑）でもそれは看護学校でもそうなの。それをくぐりぬけてきているし。今は、先輩、優しい。先輩たちも「この子を育てないと私たちも大変だから」って思ってるのね。看護師って、すぐ辞めるし、資格があれば、どこでも働けるし、看護師って離職率も高いのね。だから、先輩たちはできるだけ優しく教えて、この子たちを立派な看護師に育てたいっていう

のは、みんなそう思ってる。病棟によって、すぐ辞める病棟とか・・・。病棟でも、何とかして残って、ちゃんと看護師としての業務をこなせるように、一人でも多く育ててあげたいっていうのはある。何かあっても、先輩に相談したり、何かしら一人くらいは気の合う人いるよね。あと、師長さんに相談したり・・・。まだ1か月だけど、思った以上に優しい。

学校時代は、まあ、色々あった。自分の場合は、来日して4年で看護学校に入ったため、日本という社会を全然知らなかったし。いわゆる日本の「学校」に行っていなかったので、グループで行動するという文化を知らなかった。トイレまで一緒に行ったりとか。「なんで～？」みたいな・・・。1人で動くのが好きだった。(今は)それも、コミュニケーションかなと思うと「行く行く！」と言って・・・。

(「夜間中や高校には行ってたのでは？」という会場からの疑問の声。) 私の場合は、夜間中学で日本語を1年。日本語を学ぶ外国人がほとんど。高校は都立の山吹高校(単位制)に1年通い、そこもちょっと大学のようなシステムだった。それから高校も通信制に移り、早く終わらせたくてたくさん科目を取り、高卒認定試験を受け、高校卒業までを2年で終わらせた。いわゆる日本の「学校」ではなかった。

高校生 B: すごい分かるんですね。なんか、ちゃらちゃらした奴ら。それと、静か～な。それも日本の学校独特だと思う。

高校生 A: ちゃらちゃらした奴らには、入らない。(「入らない」「私も)」あとあと面倒になるのが分かるから。

高校生 B: 先生もそれが分かっているクラス分けする。きれいに二つに分かれるんですよ。

高校生 A: あ、うちもそう。ちょうど半分半分。

高校生 B: お弁当、食べる時も、きれいに分かれるから。

U: いますよ、そういう人。気が強そうで、ちゃらちゃらしててね。いるいる。でも、そういう人がまじめだったりもするんだよね。

直前は塾にも行ってました。国家試験用の塾。実習の間とか。3年間は、本当にきついと思う。

参加者: 今日は本当に勉強になりました。若い方々の世界、看護師の世界、知らない事でした。日本もこれから皆さんのような方々が支えるようになっていくから、心配しないで。

矢崎: まだまだ、ご質問があるかもしれませんが、すでにお約束の13時半になりました。Uさん、今日は本当にありがとうございました。(拍手)

(その後、高校生たち2人とUさんはその場に残り、話し続けていました。)